

第1予算審査 特別委員会委員長 報告

審査報告
委員長 松枝友久
副委員長 古賀泰弘
委員 中島征行
近藤純久
中島宗昭
松枝治幸

行財政改革の推進と 健全な行財政運営

公債費は、平成29年度がピークで、債務負担行為分と合わせると6億2011万3千円となる。今後、年々支出が増加していく中、自主財源である町税は、今後も増収は見込めず、地方交付税なども、国の財政状況により、今後は、益々厳しくなると思われる。このような財政状況から、今後は、更なる行財政改革の推進と健全な行財政運営を強く求める。

庁舎管理費の比較検討と トイレの要望

庁舎トイレは、各階に1個ずつ洋式便器に改装されたが、男子トイレの小便器、男女トイレの手洗いを自動化に出来ないものか要望した。

電算費のコスト低減

電算機器に関する経費が高額である。競争原理を働かせるなど、出来るだけ安くする努力を望む。

緊急防災無線整備

緊急防災減災事業債で100%充当され、内70%が交付税で措置される。町の負担は30%となる。

第2予算審査 特別委員会委員長 報告

審査報告
委員長 徳永 豊
副委員長 山北 清四郎
委員 牟田口美智子
井上 護
中島 和正
小島 裕司

付託を受けた所管する後述の7課が抱える予算総額は30億693万6千円について審査を行った。

各課とも、予算書の款、項について目こ節に及ぶ詳細な説明を受け、特に新規事業、特筆すべき事業などの説明を求め、意見や不明な点は、更に詳細な説明、資料提出等により慎重に審査を行い結果、委員全員賛成により承認した。

特筆すべき説明や各委員から出された意見・質問及びその回答、見解等充実した審査であったことを申し添えさせていただきます。

紙面の都合上、各課とも抜粋した形でお知らせしますのでご容赦ください。

福祉課

災害時要援護者避難支援システムに関しては、総務課と連携して、データや資料を共有するとともに、事務局も一緒に行っている。

障がい者の自立支援給付費の増加は、法改正によるサービスメニューの増加、更に相談事業所を社会福祉協議会へ委託したことによりサービス内容が住民に浸透したためであると説明があった。

消防団員の確保

団員の確保は、行政区、分団、各部も大変な苦勞をされていると聞く。消防団OB等、自主防災、地域防災計画等で、検討してほしい。

消防水利確保と 団員の衛生環境整備

クリークの消防水利の点検は行っているか、表示板はあっても水利にならないところがないか、関係課で協議を願う。また、各部の格納庫にトイレが無いところの検討を願う。

掘再生関係の事業予算

掘再生事業及び発信力向上事業、景観・土地利用計画検討委員会、堀なおしモデル事業、新規に子供掘学習シンポジウム関係が予算化されている。

泥土処理対策

クリークの泥土処理は、過日、私ども議会で本省関係者に要望し、その後、農政局、県、農林事務所の担当者と現地調査し懇談の場を設け協議したが、クリークの泥土処理については、単に大木町の問題だけではなく、地域の問題と思うので、関係する市町で協議され一緒に提案要望されたがよいのではとの助言をいただいている。関係課と充分

検討され取り組まれるよう要望する。
ひしのみ国際交流センター
活動内容の再検討を要望する。

道の駅おおき周辺整備 (新規)

道の駅周辺整備事業実施設計委託料は、駐車場幅の測量設計と442号バイパスからの右折協議を警察と行うための設計委託料。

就農実践担い手育成事業 (新規)

この事業委託料は、国の緊急雇用事業100%で、今後就農希望者の育成を図り、農業塾に委託する予定。

農業振興指導員雇用負担金 (新規)

営農指導員をJAに配置し、2分の1を負担する。人・農地プランの指導と青年就農者の育成を目標としている。

青年就農支援金

支援金は、平成24年度からの継続が7名、平成25年度が7名、平成26年度は3名予定している。

道の駅周辺モデル農園への 井戸ポンプ設置

地下水の利用については、諸々の課題があり、クリークの水の利用の再検討を願いたいとの意見があった。委員会で現地確認、調査を行った。

ろ過ポンプ取り換え工事などの予算化を図った。

いづれ取り組まなければならない天井や壁改修であるので、事故が起きる前に解決していたくよう要請した。

特定検診受診率が下がっているので受診率アップに努められるよう指摘した。

生涯学習課

大木町小中学校PTA連絡協議会補助金に対し、10年来予算額が変わらない、郡代表としての出ことも多く、個人負担のケースもあると聞くが増額できないかとの意見に対し、当会事務者と協議し、実情を把握し対処したい。

地区公民館長は地区では地域活動の全権を背負っている。区長より大変な役割があるにもかかわらず、町としての位置付けがないし報酬も安すぎるとの指摘に対し、近隣の状況も調査したいとの回答であった。

税務町民課

人権・同和問題啓発事業が主で特段の質問や意見はなかった。

学校教育課

英語指導助手を25年9月から民間委託に切り替えたことにより経費が下がった。
小学校費の光熱水費が予算増になったが、エアコン24部屋だったのが、普通教室等を含む71部屋になり、更に電気料の中で基本契約部分が約1.74倍

農地・水保全管理事業

交付単価の見直しで増額された。14地区の23集落となっている。

プレミアム付き 商品券発行助成

2千万円増額し、平成26年度は7千万円を発行、時期も前倒して4月に実施される。

農業水利施設保全合理化事業

この事業は、国50%、県25%、町25%負担で、平成26年度より平成28年度までの3カ年事業で、4カ所を予定。

農村振興総合整備事業

3カ所を予定。工事発注は、年末、年度末に集中しないよう、国、県と協議され早期発注に努力されるよう要望する。

橋梁補修事業

橋梁調査の結果、補修などの指摘された橋を現地調査した。今後、補助対象に申請し工事を行っていく予定。

八丁牟田駅前広場整備事業

八丁牟田駅前広場整備工事の入札は、総合評価方式を予定している。

石丸山公園整備事業

高齢者向けの健康遊具(一般の方の利用も可能)を3台設置計画。平成26年度予算可決後、出来るだけ早く着手して、設置後は多くの皆さんが利用されるようPRに努められるよう要望した。

の重い負担になったため。これは中学校も同様である。

学校給食共同調理場では職員用トイレが給食調理場としての現在の衛生管理基準を満たしていないと教育事務所からの指摘があったために改修工事を行う。

環境課

合併処理浄化槽維持管理協会を立ち上げたのだから加入者に良かったと言われる管理協会に育てるよう指示した。

猫不妊去勢手術支援事業は野良ネコが動物愛護法の関係で捕獲できない。飼い猫を対象にして予算化した。
地球温暖化対策支援は、今年特に太陽熱温水器の普及に力を入れた。
塵芥処理の第2ステージとして空き缶などの資源物を常設のボックス(コミュニティセンター、シルバー人材センター)で対応、他の少量ごみは各地区と環境プラザで対応し、地区分別収集の負担軽減を目指している。

大木町国民健康保険 特別会計

歳入歳出ともに前年度より4.56%増額、主な要因は保険給付費、後期高齢者支援等の増額、一方共同事業拠出金の減額などによる。
医療費通知を区長配布から郵送に、また保険証のカード化に伴い郵送に変え、その際ジェネリック医薬品の普及のためパンフレットを同封し医療費抑制に

町営住宅払下げ

平成26年度中には、払い下げを確定する予定。

水道事業

平成25年度に実施した老朽管更新・耐震化計画を受けて、管路更新化工事は、平成27年度より事業着手する。約30億円の事業費になる見込みで、事業期間は15年間程度を見込んでいる。

平成26年度で資産減耗を計画している旧配水場建物の管理棟及び倉庫の現地調査を行い確認した。

水道事業は、町民生活に密着した事業であり、安全・安心で安定した水、又おいしい水を供給するために更なる事業の進捗を図るよう指示した。



審査の様子

努めている。

医療費の増大化が財政を圧迫しているのが実情であり健康増進を図る、特定検診受診率の向上、ジェネリック医薬品の普及のPR、周知徹底に努め医療費抑制に頑張っていたかどうかよう指示し、予算は提案通り承認した。

後期高齢者医療 特別会計予算

歳入歳出予算は昨年より4.1%増加、主な要因は医療保険料の増収によるもの。
運営は広域連合が行ない、町が行なう業務は加入手続き等・保険証交付・納付書の発行など窓口業務や保険料の徴収業務等であり、特段意見はなかった。全員賛成で承認とした。



審査の様子